

「EBM 時代の症例報告」

Clinical Case Reporting in Evidence-based Medicine 2nd. ed

Milos Jenicek 著
西 信雄 訳
川村 孝

京都大学大学院医学研究科助教授

中 山 健 夫

このたび Milos Jenicek 教授による「Clinical Case Reporting in Evidence-based Medicine」第2版の邦訳「EBM 時代の症例報告」が西信雄先生・川村孝教授の手によって邦訳、刊行されました。Jenicek 教授はモントリオール大学、マクマスター大、マギル大学というカナダを代表する名門大学で教授を務められた著名な臨床疫学者であり、その前著は「疫学現代医学の論理」(名古屋大学出版会)として邦訳版も出版され好評を博しています。本書はEBMの到達点を膨大な文献レビューにより鮮やかに俯瞰すると共に、「症例報告」の方法論を捉え直す視点から果敢な再構成に挑んだ意欲作です。約200頁の本書で引用されている文献は実に500編を超え、臨床試験やメタ分析はもちろん、1人N回試

験、対照なしの症例対照研究、質的研究、遺伝子疫学、さらには法廷におけるエビデンスの役割まで言及され、その視野の広さとバランスの良い問題点の整理には感嘆するばかりです。これまで「症例報告」が、これほど立体的な枠組みの中で記述の対象となったことを寡聞にして知りません。まさに“宇宙の中にはわれわれだけがいるのではない”(本書44頁)のでしょう。

本書は、既にEBMを実践し、量的な情報と質的な情報の両方への目配りの大切さを再確認されつつある読者にとって特に有用と思われる。EBMにおける症例報告という“ミッシング・リンク”は、本書によって確実にその姿を現しつつあるようです。

以前、訳出に関わったRoseの「予

防医学のストラテジー」(医学書院刊)を手にしたとき、真に社会の幸福を願う疫学者の志に感銘を受けました。本書もきっと同じように、多くの読者に新しい知識と展望を与えることでしょう。西先生・川村教授にはそのご慧眼のみならず、この密度の濃い著作を訳出するご苦労と、それを越えて本書をわが国に広く紹介されようとしたそのご情熱に改めて敬意を深めております。

EBMが患者志向の医療を実現する実践的知識そして知恵の体系として、さらに成熟していくための必読書として本書を推薦する次第です。

● A5 頁224 図21 写真1 表8
2002 定価(本体3,500円+税) 送料実費

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)